

成溪會誌

1993.1 No.76

Ognio

成 蹊 学 園 の 近 況

大学の近況

今年の就職事情

予想以上に厳しかった就職環境
バブル経済崩壊後の景気の低迷でスタートした今年の就職戦線。昨年とは一変して学生にとって厳しい環境でした。企業は業績の悪化や景気の先行き不透明感から、新規学卒者の採用を抑制する姿勢を打ち出し、この傾向は大量採用を続けてきた大手人気企業ほど顕著で、連日マスコミを賑わせました。企業は、「いい人材」を求め、「量」から「質」の確保への変化をみせ、厳しい選別を行いました。ここ数年続いた「売手市場」も終わりを告げ、就職・採用環境は様変わりしました。特に、今年は女子学生が予想以上の苦戦を強いられ、夏休みが終わっても就職先が決まらない学生が昨年より目立ちました。また内定をもらっていないが、希望の業種・職種ではないことに不満をもち、いまなお就職活動を続けている学生もおります。

こうした状況での今年の就職戦線の模様を、取りまとめてみました。

不安感を抱きながらのスタート

昨年前半、「就職協定廃止論」が日経連から飛び出し、大学も企業も大慌てしましたが、結局「採用選考開始が八月一日前後を目標」という線に落ち着き、今年の就職の解禁は、昨年よりいくらか前倒しになるだろうと、予想されました。ところが、景気の後退で、学生に人気のある大手企業を中心として、大幅に採用枠が縮小され、人気企業は急いで選考する必要性もなくなりました。「学生をじっくり見て採用できる」という余裕からか、心配されたほど早期選考開始の混乱も思いのほか少なくなりました。ただ、学生にとっては、景気後退による不安感を抱きながらのスタートになりました。今年も優秀な学生を求め、早期に選考した情報処理産業や流通、証券、中堅商社等は、セミナー開催のアクションを各大学に対して起こしてきましたが、景気後退の影響からか今一つ勢いが感じられませんでした。一方、学生の就職意識は、相変わらず大手志向で、「ワンランク上の就職」を考え、出来るだけ早く志望の企業と接触をもちたい願

から、五月の連休があげると先輩訪問が盛んに行われるようになりました。

このことは結果的に、大手企業が水面下でOBリクルーターを動かし、採用ターゲット学生の絞り込みをはじめることになりました。六月下旬の株主総会より七月中旬にかけ人事部選考が行われ、八月中旬にはほぼ終了をみました。今年の活動の中では、早期にリクルーターに会って、いい感触を得た学生もいれば、いつまでもリクルーターの段階に留まり、なかなか結果が出ない学生もいて、次のステップへの判断の読みが難しい状況でした。昨年であれば翌日に内定結果を聞くケースが多かったのですが、今年は結果が遅いことに学生が戸惑いました。

求人・就職内定状況

民間調査機関の調べでは、来春の卒業予定者に対する企業の求人倍率は、男子が二・二二倍。女子（短大を含む）は昨年の一・三倍を大きく下回る〇・九三倍迄に落ち込みました。就職希望者数より求人が下回り、約一万八千人の「就職浪人」が予想されてきました。こうした中、まだ就職活動が続いている状況です。

さて、本大学では例年、就職希望者

一、四〇〇人に対して七、四〇〇社から求人がありますが、今年は七、一〇〇社で前年比三〇〇社（約四〇％）減少しております。

また、就職内定状況は現在文科系九二％（前年九七％）、工学部九七％（前年九九％）、女子九三％（前年九七％）で、前年を下回っており、中でも女子の苦戦が読み取れます。

特に、上場企業内定率は昨年を大幅にダウンし、文科系五一％（前年八三％）、工学部七二％（前年七三％）で、それぞれ二一％減、一％減少、やはり景気後退の中で厳しい就職環境にあったことが窺われます。

産業別就職先はこれから集計しますが、感触として今年は生保を除く金融証券、不動産、情報処理等が減少しているでしょう。全体的には学生の就職先は、幅広く優良の企業に内定していることが予想されます。今年は厳しい環境にはありますが、多くの大学の中でも就職状況は恵まれて推移していることは言うまでもありません。

三年次生への就職指導

就職相談は、学生との個別面談を基本としたマンツーマン指導を徹底しております。特に今年は三年次生を対象

に新たに懇談会を開催し、学生の就職意識や職業観を高め、レベルアップをはかっていくことを考えています。十月十九日から十一月二十七日迄の毎日、授業が終わった後、就職課の職員がゼミ室に向いに行う「ゼミ別就職懇談会」を開催しております。今、学生から大きな期待が寄せられ、我々もこれに応えるためその準備に追われております。

（就職データは十月一日現在です）
（就職課）

学内進学相談会から

東京都を中心とした関東近県からの受験生が圧倒的に多い成蹊大学。今日では、この地域の受験生に、「都会的な雰囲気を持つ、勉強環境の良い総合大学」としてのイメージを持たれ、知名度も定着しています。このことは、平成四年度入試では、八九％が関東及び中部地区からの受験生で占められていることから、裏付けられます。

成蹊大学では、大学としての一層の地位の向上に向けて、基盤となる関東近県を重視しつつ、その源となる受験生を広く全国的に求めていくことが必要とされます。そのため、本学では、

次に、参加者が提出したアンケート結果の一部をご紹介します。

別表1で見られるように、参加者数は昨年度に比べ大幅に増加しました。その要因は、受験生にとって九月がタイムリーであったと推測されます。同時に九月という時期は、海外帰国子女入試、推薦入試を目指す生徒たちにとっても、大学訪問の好機であったと考えられます。学部別では、東京及び学内で開催する場合、文学部への相談が常に目立ちます。今後、女子の進学率がより高くなれば、この傾向は更に顕著になるものと思われれます。

別表2では、知名度に頼る大学選択の意識が一般的にまだ根深くあるものの、徐々に特色と内容を重視する傾向に変化していることが、受験生のニーズとして感じとることができます。

別表3、4については、受験生の成蹊に対する見方や、また、成蹊の特徴がどの程度理解されているか等がうかがえます。

最後に、別表5として併願予定の大学を四学部合計の順位で掲載しました。本学志望者が持つ、共通したイメージの大学が数多く見られますが、競合する大学が微妙に変化してきているのも事実です。

（入学課）

別表1. 学内進学相談会参加者数

参加人数		751名 (昨年 534名)
内 容 別 内 訳	個別相談	経済学部 64名
		工学部 40名
		文学部 182名
		法学部 66名
		(未定) 9名
		合計 361名
	施設案内	467名
	在学生との懇談	168名
	アンケート提出	442名

（注）1. 個別相談の（未定）は、志望学部を決めかねている者
2. アンケート提出率 59％

情報提供の機会が少ない地方の受験生や高校教員等に、本学をより一層理解してもらうために、毎年五月から十月にかけて全国各地で開催される進学相談会の多くに参加しています。

また、本学を会場として開催する学内進学相談会は、基盤として重視すべき、受験人口の最も多い東京を中心とした関東近県を対象に、その地固めの一環として毎年行っています。

昨年までは、七月の末に二日間におたつて行っておりましたが、今年は、受験生の心理とニーズを考慮して、七月と九月にそれぞれ一日ずつ実施しました。結果は、生徒、教員、父母等を含め、総数で昨年を二七名超える参加があり、大変盛況でした。

当日の内容は、学部別の個別相談、キャンパス案内、ビデオによる大学紹

中学・高等学校の近況

国際学級の受験資格の変更について

成蹊中学校では海外における日本人学校の充実など種々の変化に伴い、国際学級の受験資格を次のように変更し、平成七年度から実施することになりましたのでお知らせ致します。

(1) 在学期間
保護者の勤務の都合で三年以上連続して海外に在住したもの。

(2) 在学期間での在籍校
次のaまたはb、ただしa bとも補習校に通学していても資格を失わない。

a、現地校（または国際校）のみに在籍していたもの。
b、帰国直前の三年以上連続して現地校（または国際校）に在籍していたもの。

(3) 帰国時期
一年の四月入学……前年の七月一日以降に帰国したもの。
一年の九月入学……その年の二月一

日以降に帰国したもの。

二、三年の四月入学……前年の七月一日以降に帰国したもの。

なお平成七年度は(1)の在外期間の三年を二年でもよいものとします。

蹊祭

今年は十月二日、三日に蹊祭を行いました。蹊祭で、実行委員として装飾を担当、そのほか大教室公演等幅広く活躍した三Dの牧野裕美さんに蹊祭を振りかえってもらいました。

（中学・高等学校教頭 松田淳一）

蹊祭を振り返って

中三 牧野 裕美

私にとって三度目の、中学校生活最後の蹊祭が終わった。

私は実行委員会、大教室公演、有志展、クラス展、広報委員会と五つをかけたもつことになってしまい、準備段階から実に多忙な毎日を通した。しかし私はその多忙な日々の中で全てをうまくこなしたかと言えはまったくそんなことは言えない。実行委員会と公演団体の二つをかけたもつのに精一杯で、その他の団体にはほとんどタッチすることができず、多くの人に迷惑をかけたしまった。全てを完璧にこなすこと

別表4. 成蹊大学志望の理由

(回答者中)		
1.	自由でアットホームな雰囲気	42%
2.	立地条件が良い	33%
3.	勉学環境が充実	31%
4.	授業科目の充実	28%
5.	個性尊重の教育方針	23%
6.	先生・家族・知人等のすすめ	22%
7.	就職状況が良い	19%
8.	知名度が高い	18%
9.	施設・設備	12%
10.	ゼミ活動の両立	12%
11.	勉学とクラブ活動の両立	9%
12.	奨学金制度	9%
13.	その他	3%

（複数回答を含む）

別表5. 併願を予定している大学(上位20大学)

1.	大学	成蹊大学
2.	大学	成蹊大学
3.	大学	成蹊大学
4.	大学	成蹊大学
5.	大学	成蹊大学
6.	大学	成蹊大学
7.	大学	成蹊大学
8.	大学	成蹊大学
9.	大学	成蹊大学
10.	大学	成蹊大学

（注）上記の20大学は、4学部の志望者数を合計した順位

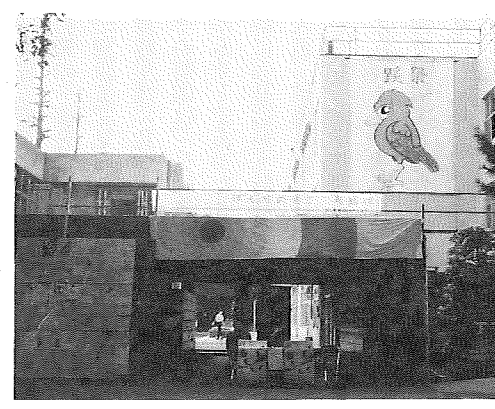
介、そして在学生を囲んでの懇談等です。参加者の割合を地域別に見ると、東京及び関東近県からは、さすがに九五％の高い参加率を示しました。また東北、中部、近畿、四国、九州からも現役生の参加があり、受験生たちの懸命な姿勢を強く感じました。

ができなかった、というより、全てが完璧でなかったといった方が良いかも知れない。その点では深く反省した。しかし私は精一杯、自分の最低限のノルマはこなしつつも、だから私の心の中には充実感が常にあった。自分達が作った横断幕と壁面装飾が掲げられた瞬間、舞台を終えた瞬間の感動と、蹊祭の全てが終わったときの何とも言えない充実感と満足感を私ははつきりと覚えていて、これから忘れられないだろう。今回の蹊祭で私は多くを学ぶことができたし、今までに味わったことのない素晴らしい感動を味わうことができた。今年の蹊祭は私にとって、忘れられない心のページとなった。

小学校の近況

■平成五年度 新一年生入試について
最近、ますます私学指向が高まっています。成蹊小学校の場合でみますと、
①入試説明会のおよその参加者数
平成三年度（二年九月）一三〇〇名
平成四年度（二年九月）一五五〇名
平成五年度（四年九月）一七〇〇名

②入試要項頒布数	
平成三年度（二年九月）	二六七七部
平成四年度（三年九月）	二九三三部
平成五年度（四年九月）	三〇八〇部
③志願者数	
平成二年度（元年十一月）	九七五名
平成三年度（二年十一月）	九一三名
平成四年度（三年十一月）	一〇九四名
平成五年度（四年十一月）	一一一五名
④倍率（受験者）	
平成二年度・男子	五・七倍
女子	六・二倍
計	★五・二倍
平成三年度・男子	五・四倍
女子	六・八倍
計	★五・九倍



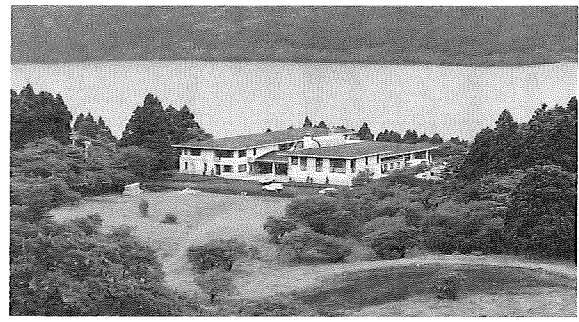
平成四年度・男子		六・五倍
女子		七・七倍
計		★六・九倍

といったところです。
全国的に、児童数が減ってきていますから、現今がピークかもしれません。が、今後も、五倍から六倍というところでしょう。

本年度から、父・母・子の三者面談とし、親子のかかわりぐあいや、親子の雰囲気などを感じとらせていただくようにいたしました。
日常生活に即したご質問をさせていただくつもりです。所要時間は七分間位です。
成蹊学園の理念を理解していただき、たんに学費が払えるからといっただけの方でなく、成蹊精神はもろろんですが、親として、子として、より成蹊を愛して下さる心の雰囲気のある方々を

箱根寮新寮舎

箱根寮の新寮舎は7月のオープン以来、小学校の夏の学校を中心に、大学のゼミ合宿や卒業生の家族旅行にと幅広く利用され、7、8月だけの利用者は約二千人にのぼり、予想をはるかに上まわる状況でした。利用者の間では設備のすばらしさとともに食事の美味しさも大好評です。
学園寮は、卒業生の方も利用することができます。どうぞお気軽にご利用ください。なお、申込み方法等については学園管財部管財課（〇四二二一三七二五一一ダイヤルイン）までお問合せください。



求めております。簡単に言いますと親子が、明るく仲よしであればよいと思います。わずかな時間ですので、その範囲で感じとれることを考えています。

■小学校で、今、考えていること

①本年度の学校運営の力点として「人的環境の吟味」をとりあげました。子どもたちの人間形成にとって家庭・学校・社会・自然とある中で、本校の場合、私学という立場から考えますと、「教師」の努力如何が大きく響きます。ですから、教師の立場にある者としては、「サル」よりも深く反省し、常に新鮮な感覚でもって、児童に接していかなければなりません。

そのためには、児童を教育するために必要な情報を収集するための日々の研修は言うに及ばず、人間としての「人格陶冶」に力を注ぐ必要があります。

さいわいに、先輩諸氏が、民主的方法を定着させてくださっていますので、重要案件は、すべて、職員会議の場で、過半数をもって決しています。

しかし、個性差のある集団ですから、より情報交換を密にし、ポジシヨンの人の立場を尊重し合う方向で努力しています。

成蹊の児童を愛する心や情熱は、全職員持ち合わせています。ただ、教育的指導面においては、児童の個性尊重の面からみれば、まだまだ不足の点が多いと反省しています。ですから、全校研究テーマを「子どもが意欲的になる授業の工夫」と決め、三年間継続研究をすすめています。

また、「人的環境」として考えられることは、「児童相互間」「先輩と後輩の関係」等があります。

学級内の人間関係への目配り、すなわち、「いじめ問題」や「弱者に対するいたわり」等への配慮を怠らないよう努力いたしております。

豊かな自然環境や物的環境の中で人的環境である、「先輩諸氏」にめぐまれている成蹊の児童に對峙するとき「教師集団」が、どれだけ秀れ

た人的環境になりうるかが問題であると自覚し、努力している昨今です。

②子どもの生活（アンケート結果）

教務部が中心となり、平成三年十二月にアンケートしたものの中から、一部分をお知らせします。

A、最近の生活や学習から気づいていること。

- 金、土の夜がゆったりできる。
- 月曜日に疲れを残すことがすくなくなった。
- 友人との交流が多くなった。
- 自主的、計画的に学習するようになった。
- 欠席が少なくなった。
- お稽古ごとに親がかかわりがもてるようになって新鮮な喜びがある。
- 土曜日に、復習や読書をゆつくりできるようになった。

反面、マイナス要因もあります。

- リズムの調整にやや苦勞する。
- 遊び過ぎや外出が多くなった。
- 一日中、グラグラしている。
- B、一週間の中で、疲れている曜日は。
 - 金曜日一四〇％
 - 木曜日一三六％
 - 水曜日一二％

C、平日の睡眠時間は。

- 一年生一八・二時間
- 二年生一九・〇時間
- 三年生一八・七時間
- 四年生一八・五時間
- 五年生一八・一時間
- 六年生一七・八時間

D、土、日曜日に、お子さんとき合う時間がゆったり取れますか。

- ・はい 一八九・八％
- ・いいえ 一〇・二％
- E、一週間のお子さんの生活にゆとりがありますか。

- ・はい 一四四・八％
- ・いいえ 一一・五％
- ・どちらともいえない 四二・七％

■行事報告

- 夏の学校
 - 一年生一箱根（二泊三日）
 - 二年生一箱根（二泊四日）
 - 三年生一清里（四泊五日）
 - 四年生一波左間（五泊六日）
 - 五年生一志賀高原（五泊六日）
 - 六年生一波左間（五泊六日）
- 師範のお力を借りて、四年の樽回り、六年の二キロと一キロの遠泳を実施いたしました。

（小学校長 吉川五男）

成蹊会報告

平成4年5月1日
平成4年10月31日

一、会 議

○理 事 会

第110回理事会(4・5・25)

- (1) 平成3年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成3年度財産目録承認の件
- (3) 成蹊会特別会員(教職員)推薦の件

○会 員 総 会

第37回通常会員総会(4・6・29)

- (1) 平成3年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成3年度財産目録承認の件
- (3) 平成4年度事業計画及び収支予算案承認の件

○評 議 員 会

第39回評議員会(4・6・29)

- (1) 平成3年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成3年度財産目録承認の件
- (3) 平成4年度事業計画及び収支予算案承認の件

○特 別 委 員 会

財務委員会(4・5・8)

スポーツ振興委員会(4・5・8)

広報委員会(4・5・11)

育英奨学委員会、学術・教育助成委員会(4・5・12)

成蹊クラブ委員会(4・5・22)

育英奨学委員会、学術・教育助成委員会(4・6・22)

スポーツ振興委員会(4・7・6)

○同 窓 会

プレメ幹事会(4・6・9)

法学部委員会(4・7・15)

文学部委員会(4・10・15)

文学部委員会(4・7・3)
文学部委員会(4・9・4)

○支 部 会

九州支部総会(4・7・4)

東北支部総会(4・9・27)

千葉支部総会(4・7・4)

二、催 事

○第32回成蹊会謝恩顕彰会(成蹊クラブ・4・10・1 関連記事54ページ)

○第32回日本寮歌祭(日比谷公会堂・4・10・3 関連記事20ページ)

三、刊 行 物

○成蹊会誌第75号発行(4・7・1)

表紙のことは

荻野宏幸

宇宙人は、ミイラのような四肢と胴体に大きな頭と耳がついているらしいが、それと逆に、能装束風の角張った図体に小ぶりの頭を、ひとつの線と一つの円であらわし、宇宙らしい空間に人間模様を試みた。宇宙空間で能を舞う時代がやがて来るだろうか。こんな人間模様も、五体、十体とからみを増すほどに、無限の変化が生まれてくる。線と円の組合わせを音譜がわりに、音楽的な律動を構成し、色彩の緩で情感をたぎらすこともできる。写真をカメラに任せて、實在模倣のくびきから解放された絵そらごとの自由は、宇宙のように限りなく広がる。だが、その自由は、危険と陥し穴に満ちている。道元の画餅(前号当欄参照)にことよせた認識論は、このあたりも見透していたように思う。

平成5年1月1日

編集兼発行人 谷岡喜久蔵
発行所 社団法人 成蹊会

〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

電話 0422-51-2244(直通)・5181(交換)

FAX 0422-54-6766